慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	英国穀物市場の史的考察（一）
Sub Title	
Author	高木, 寿一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.3 (1924. 3) ,p.454(150)- 462(158)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240314-0150

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

り居りしかど、會所の名目も記入せられたき旨兩組より願出でたり。かく記入せらるる時は他國に流通せる場合にその流通高の增加する時は自然各組の面目にも關する故、銀札會所の名を出しくるゝ樣願出でたるなり。これ八年十月に紀州藩に宛てゝの上書なり。これに對し奉行所は異議なく許し、早速これが實行にとりかゝれり。かゝる上書を呈出する迄他國の流通高の高額に上ることを憂へたるは無理ならぬことにしてこれ銀札の紀州藩より拜借せりといふが故に苦痛なりしなり。文政八年より翌九年にかけて、この他國流通に關する問題につき、屢々紀州、京都並に大坂の間に手紙の往復ありたり。文政九年松坂の三井則右衞門高臣（オミ）、乾市右衞門、泉常右衞門に宛てたる手翰に

銀札追々通用宜敷御領分は勿論他領南都迄も御拜借願來り札數高相增候に付藤堂家大和國古市札並同國郡山札手形高承り合せ候處古市札約三十五萬餘郡山札八、九萬兩餘通用致候趣當所の札大和へ相廻りそれより南紀へ通用致候趣相成候右御兩家札高よりも相增可申歟然候ては八郎右衞門樣御名前も有之候事萬一故障等有之候ては店々所用筋にも差支可申勿論甚大切の儀と存じ色々心配在罷候處爲替組の中にも同樣深く案じ樣々及內談候云々

とあると見ても常時の消息を窺ふを得べし。

（此節未完）

英國穀物市場の史的考察（一）

高木壽一

一　マナアを一の單位として見る場合に於ては、

アシュレー教授の云ふが如くば、經濟的觀察點より見れば、マナアの根本的特徵たるものは其自給自足、其社會的獨立であつた。其村落共同團體は日常生活に必要なるすべての職業、手工を行ふ人々を包含した。通常の英國村落の住民は、年々歲々、同一なる慣習的耕作方法を繼續し、彼等が生產したる所のものによつて生活し、殆ど外界とも相接觸することはなかつたのである。實に、都市の存在そのことは、純農業的諸地方が彼等自らの消費に要したるものよりも以上に生產したることを示す。穀物及家畜は規則的にマナアの領主及其代官によつて、大領主及諸團體が實物支拂によらず貨幣支拂を望むに到るにつれては、益々其量を增し、遠地の市場にさへも送られた。而も村民が外界との他の取引は極めて少なかつたのである。

此村落は其自體に於て、具體、完全なるものたるのみならず、其協同一致の觀念の强烈なる、實に一の協同團體として行動し得る程であつた。

自給自足と協同一致——斯くの如きは即ち一の全體としてのマナア共同團體の主要特徵であつたのである。(Ashley: The English Economic History and Theory Vol. I. p. 33, p. 34, p. 35, p. 36)

或は Prothero (Lord Ernle) も亦、マナアに於ける土地耕作者は彼等の生產物をば販賣のために作るにあらずして、自己消費のために作つた。各マナア或は村落は孤立し、自給自足をして居た。唯、都會 (town) の附近に於てのみ農場產物に對する何等かの市場があつたばかりであると云ふ。(Lord Ernle: English Farming, Past and Present p. 7)

此 Ashley 及 Prothero の場合に於て共に、其自給自足 (self-sufficiency) なる語は絕對的のも

のにあらずして、例令鹽、タール（tar）、鐵、臼石其他がマナアの外部より齎らされたることは認めて居る。

孰れにもせよ、マナアを一の孤立的共同團體として觀察するを常としたるが爲めに、從來多くの史家の研究は殆と全く、一の單位としてのマナアに注かれ、マナアの起源、マナア內部の諸階級各代の農業法等に就ては研究せられたれども、マナア相互間及び都市との關係、殊に穀物需給の關係につきては研究せられたること極めて少なかつたのである。

先づ此點から出發し、マナア相互間の關係等の外部的方面を觀察し、中世農村生活及マナアの崩壞につき新なる考察をなせるものは N. S. B. Gras; The Evolution of the English Corn Market (1914) である。私は以下本書を中心として、中世並に近世初期に於ける英國穀物市場發達の經過を見たいと思ふ。

二

自由村落共同團體より、單一、私有の所領よりするマナアが發達の研究に加ふるに、具體完全なるマナアが多數マナアの集合體へ擴張せることの研究を以てせば、恐らく三種のマナアあることを示すであらう。

即ち、第一のものは遂に其集合體の一部とならざりしものにして、第二のものはそのマナアとなりし時より、マナアの相互依囑、連繫の基礎の上に組織せられ、代官管理農業（Bailiff Farming）の崩壞の時に到るまで斯る狀態に留まりたる、僧院僧會マナアの集合である。第三のものは、始め食料貢納の階段を經て、後にマナア相互的組織の一部となれる、俗界聖界の團體である。若し此分解にして正しくば、明に孤立的なるものは第一のもの及び第三前半のものの

みである。而も國王に屬する俗界のマナアが地方的諸集合體に組織せられ、其本領マナア（head manor）に國王及其從者等が行きて其所得を消費するものならば、孤立にあるマナアの數は減ずるのである。斯くの如き仕組は他の諸團體即ち俗界僧界の諸領主に屬するものについても亦眞實である。

初期のアングロ、サクソン時代を除き、マナアの孤立は通則たるよりも寧ろ例外たること、並に如何なる時に於ても傾向は常に孤立を離れて相互的マナア關係に向ひ居たることを斷言するも恐らく正しいであらう。之はマナア相互間の偶時的關係に據るにあらずして、規則的に組織せられ、殆ど繼續的交通の存したることに據るのである。（Gras, ibid. p. 10-11）

茲にマナアの發展の說明に資し、並に市場存在の問題の最古の徵證を與ふべき、マナアに於ける物價の比較を得んがため、其資料の最も精細にして豐富なる小麥をのみとりて見る。

一二〇八――一三〇〇年時代の英蘭土に於ける小麥價格の移動を南英、ウィンチェスター（Winchester）の僧正管區に屬する多數のマナア（其數二十六乃至四十四をとりて）の小麥販賣高に據つて其概要を示せば次の如くである。

一二〇八年	二志八片四分ノ一（三十四のマナアによる）	
一二〇九―一三年	二志十片（三十三のマナアによる）	
一二一四―一八年	四志三片（二十六のマナアによる）	
一二一九―二三年	三志九片二分ノ一（三十一のマナアによる）	

にして一二〇八――二三年間の中、十箇年につきての右平均價格は一クォーター、三志四片四分ノ三となり、一二二四――四八年には平均四志二片。一二四九――九八年間の平均價格は一クォーター五志四片四分ノ一となる。或は又一

二二四――九八年間をとりて見れば、五志となり。一二〇八――一五年、二志九片四分ノ三。一二一六――五六年間には四志三片四分ノ一。一二五七――一三〇〇年間には五志十片四分ノ三を以て各平均小麥價格とする。

右によりて各年代の小麥價格騰貴率を見れば一二二四――四八年間には一二〇八――二三年間の平均價格よりも二三・九％の增加。一二四九――九八年間には同じく五七・六％の增加あり、又一二五七――一三〇〇年間には一二〇八――一五年の平均價格の一〇八・八％の增加があつたことゝなる（Gras ibid p. 11-14）

而も吾人は實際に第十二世紀に於ける價格につきて知る所なきが故に、第十三世紀前半の如何なる部分が最も代表的のものたるべきか、如何なる部分を同世紀後半の價格との對照の基礎となすを最善とするかを云ふことは出來ない。一二〇八――一五年間の低價は一二〇八――二三年の高價なる時代よりも、第十二世紀に於ける價格に一層近き價格平均を持つことであらう。前者をとることによつて、假令謬つて居るとしても、其謬りは緩和輕減の方向に居る。從て第十三世紀前半には小麥價格に約二十五％の騰貴あり、同世紀後半には五十％以上の騰貴があつたのである。

尙此種の資料によりて推究せんか、一二〇〇――一三〇〇年間に於ける、每エーカー小麥生產の增加は約一五〇％にして、生產せられたる小麥中賣却せられたるものの比率增加は約一五〇％にして、生產せられたる小麥中賣却せられたるものの比率增加は四四％價格騰貴は五〇％以上である。

然るに斯る價格騰貴の原因說明は明瞭でない。しかし此時代を通じて英國貨幣制度は何等變化を受けず、又度量衡の諸單位にも何等の變化なく、且つ明に貴金屬供給量にも著しき增加なく且つ穀物の供給は寧ろ增加こそしたれ、少しも絕對的減少はなかつた。從て吾々は該價格騰貴は小麥にのみ特有のものにして、裸麥或は大麥を犧牲として小麥の消費の增加に原因したるものなるか。或は又其騰貴は一般的にして、內外商業の發展に因りて總べての種類の穀物の需要增加に因りたるか。の孰れかに結論し得るのである。（ibid p. 14-15）

同じき資料によれば一二〇八――九年に產出されたる小麥中、賣却せられたる小麥の割合は大麥の割合の一・七四倍であり、一二九九――一三〇〇年に於ては一・八二倍であつた。裸麥に對する比率は一・二五及び一・〇五倍であつた。之等を平均すれば、一二〇八――九年產小麥の賣却比率は大麥及裸麥に於ける比率の平均數の一・五倍にして、又一二九九――一三〇〇年に於てはそれは一・四五との結論となる。從て右の第一說は除外さるべきものと思はれる。第二の說即ち內外商業の發展殊には都會人口の增加による需要增加こそ一層眞に近き說明であると思はれる。吾人にとつては、マナア生產物の市場販賣の擴大しつゝありしこと及マナア組織に對する市場の影響が始めて明になりたることと等は最も注目すべき點なのである。

先づ吾人の問題は、マナアが規則的に其生產物を市場に於て販賣したるか、又從て市場販賣の目的のために組織せられたりと云ひ得べきか否かを發見し、其何時のことなるかを知ることである。

マナアが市場と密接の關係をなしつゝありとの說を支持する證左は第一に、第十三世紀を通じて、大量の又增加し行く販賣高の穀物が代官

記錄に記載されて居る事實である。之等の記錄は勿論、唯領主耕地よりの穀物の賣上をのみ示すも、又他に同じく小作人が次第に彼等の穀物地代を貨幣地代に代へつゝあつたことの證左がある。之が最も著しき例證は、英蘭土の殆ど總べての各州に存する王領地小作人の場合にして、既に夙く第十二世紀頭初の數十年代に於て國王と貨幣的契約をなしたのである。且つ又牛、馬、豚等を慣習的小作人が賣らんがためには許可を得るを必要としたれども、自由小作人は云ふに及ばず、慣習的小作人の穀物賣却に關しては何等の制限をも發見されないのである。實際に於て自由小作人も慣習的小作人も其穀物及び領主耕地の耕作に要せざる家畜は、殆ど何等の制限なくして賣却したやうである。第十三世紀に於て恐らくは第十二世紀にさへも、穀物商（Corn monger）と呼ばるる村落民である一階級の商人が生じた。換言すれば夙くもマナア内の或る人々が、其餘剰作物の賣却に規則的に從事する、穀物商人となつたのである（ibid. p. 19）

マナアに於ける小作人の穀物輸送役務に關する規則より見れば、其輸送は時〻最も近き市場に、或は州内の總べての或は孰れの市場に對してもなさるべきものなりしと共に、屢〻相當遠隔なる特定の地が記錄せられてある。又一集團の中の或マナアが穀物取引に有利なる位置にあり、其地に穀物が送られて賣却せられたる實例は即ち、ウィンチェスター僧正管區に屬するマナア集團中の Southwark のマナアである。領主耕地、マナア所屬の水車小屋及他のマナアより來れる穀物が其地にて賣却せられる。一二一三——四年の一年間に Brightwell のマナアよりは小麥二五一クォーター。Wincombe マナアよりは小麥三一八クォーター。Harwell マナアよりは小麥四五クォーターが其地に集まり、同年少くとも二九〇クォーターが賣却せられたものと考へられる。其數年前には之等の三マナアより、小麥三一二クォーターが其地に齎らされ、其中一四一クォーター半は其地に於て使用され一六八クォーターは賣却されたものと記錄されて居る。此兩者の場合に於て穀物は本領マナアに向はずして他の方面に送られ、領主及其一家の消費のため以外のことを目的として居る。第十三世紀頭初及び第十二世紀末には各地の餘剰穀物が地方的取引のみならず、穀物の海外輸出をもなされたることは各地の記錄に存し、ウィンチェスター僧正管區の場合にも輸出されたものと記されてある。（ibid. p. 20. p. 21-22）

之等の實例によつて示さるる重要なる事實は穀物に對する市場が存在したること、マナア組織が自ら市場取引の諸條件に適合せんとしたること、並に所有者の個人的必要を滿さんがために中央或は本領マナアに向はんとする穀物の流れと、領域的市場取引組織の發達によりて生ずる他の流れとが相交叉したること等である。

貨物の單なる賣買に非ずして、都鄙間の組織的交換として穀物取引の始源、即ち規則的市場組織の始めて發生したる大體の時代としては第十二世紀初期の頃であることを示すべき事實としては先づ第一には、貨幣經濟が既に其時までに充分存在し役務の貨幣代納の始まりたること、第二には其時代に都市に於ける商人がギルドを組織し始め、國王より市場の諸特權を獲得したることである。

茲に於てグラス教授は云ふ、決すべきの問題は、自給自足或は穀物の組織的交換、孰れが通則にして、孰れが例外たるかを決することには非ずして、穀物組織的交換は第十二世紀以降、

マナア組織の一の標準的形態たるに到りしこと、並にマナア生活の一面は地方的市場のための生産にあることを指摘することである。此商業を甚しく大に見ることは如何なる既知の事實とも相容ざるとしても、唯問題は其商業取引が組織的のものであり、從て規則的にして、決して偶時的のものでないと云ふ點である。（ibid. p. 22-4）

（未完）

新刊紹介

マルクス―エンゲルス遺稿

本年一月四日發行の International Press Correspondence に掲げられた左の記事はマルクシズム研究者の興味を惹くに足るものであらう。曰く。

同志 D. B. Ryasanov はその Marx 及び Engels の未刊稿を詮索してゐた獨逸から歸つて、莫斯科の社會主義アカデミイで調査の結果に關する講演を試みた。此講演から編輯者は次の拔鈔を掲記する。

Marx 及び Engels の遺稿は、其保管を托せられた者に依て甚しい不注意を以て取扱はれた。手稿は、伯林、倫敦及び獨逸社會民主黨文庫に散在して居る。Marx 及び Engels が獨逸社會民主黨に遺した夥しい藏書は殆ど全く散佚に歸してゐる。此遺贈の管理人たる Bernstein 並に Bebel は自ら其の絶對的所有者と心得て、それを其隨意に處分したのである。Mehring は黨の爲めに此等遺稿の研究に從事した最初の人であつた。彼れが出版する所の遺稿集中に發見せられる大なる缺陷は、原稿を精査することを必要とするもの丶如くであつたが、終に予をして之を行ふことを決心せしめたものは、Die deutsche Ideologie（註）の不完全不正確、"Ludwig Feuerbach" に對する序文中に Engels が原稿に言及してゐること、一九一八年に出た Mehring の Marx に關する小册子、及び最後に一九一九年 Mayer が公にした Engels 傳で、其中の Die deutsche Ideologie に言及する或頁は明に新發見を含んで居たのである。私が Marx 及び Engels 著作集（露西語版）續卷刊行の企てを延期して、未刊資料調査の爲めに伯林に赴いたのは是が爲めであつた。

私の煩勞は伯林で始まつた。私は資料を其所持者たる Bernstein から幾ど掠ぎ取らなければならなかつた。貸與せられた書類は全部撮影した。幾多の書類の刊行には特別の條件が附せられた。

發見せられた文書で今日まで刊行せられぬものの中で最も價値あり興味あるものは Hegel 以後の獨逸哲學、及び「眞正社會主義」に對する批評を伴ふ Die deutsche Ideologie の原稿である。此原稿を Bernstein の出版に係るもの（註）と比較して見ると、後者は原稿の五分二以上を含んで居らぬことが明白である。Bernstein は辨明して爾餘の部分は鼠害に患つたと謂つて居るが、事實上原稿は鼠害でなくて、終に修正主義に轉じた時の Bernstein に依て咬囓せられたのである。併し此原稿は僅に Die deutsche Ideologie の批評、而かも Stirner の批評を含む部分の一部に過ぎぬ。Bernstein に依て解讀せられてない原稿の第二の部分は Feuerbach に献呈せられてゐて、其内容をなすものは、Feuerbach の「人間」觀の批評である。吾々は成るべく速かに此原稿を發表することに努めてゐる。

ノオトの中には Hegel の法律哲學の一批評及び共産黨宣言中社會主義文献を批評する一章の筋書が發見せられた。吾々はノオトの中に數學に關する特別の著作、哲學的斷簡、希臘語の手稿等を發見した。他の文書中には「資本論」の爲めの未用資料も含まれてゐる。餘剰價値學説に關する一紙片もある。Marx は此資料を其主著の第四卷で公表する希望を抱いてゐたのである。資本論の現行版の不完全と缺陷とが共に甚しいことは、例へば第三卷の如きは之を Engels